

富嶽三十六景 登戸 浦

華が海の一景



千葉市の海辺

～遠浅のうみ ^{ゆた}豊かなめぐみ～



まだこのまちが「千葉」とよばれる前のはるか昔、人びとは、海でとれた貝や魚をはじめとした、海の幸・山の幸を食べてくらし、加曽利貝塚などの数かずの貝塚を残しました。

やがて、武士の一族「千葉氏」によって、「千葉」のまちの歴史がはじまります。そして、東京湾に面した、海と陸の交通が集まる地として栄えました。

千葉のまちに県庁が置かれて市となったころ、遠浅の海を生かしたのりづくりや漁業がさかんになるとともに、都心の近くでありながら海水浴や潮干がりも楽しめる海辺として、にぎわうようになりました。

そして今は、うめ立てによってすがたを変え、新しいまちと産業が生まれました。海辺には数かずの工場や団地が立ちならび、幕張メッセなどのすぐ先に広がる人工海浜では、かつてのおもかげを感じる事ができます。

今回、あらためてみなさんに、海辺とともに生まれ、育ってきた千葉のまちの歩みと今のすがたを知ってもらいたいと思い、この本をつくりました。千葉市にとってかけがえのないことから物である海辺について、いろいろなことを知り、学び、そして未来に引きついでいきましょう。

もくじ

空から見た千葉市の海辺	2
時代や年代のあらわし方	4

1章 海辺の歴史

1 縄文時代のくらし	6
2 奈良時代・平安時代の東国と都のつながり	9
3 鎌倉時代・江戸時代の千葉のまちと交易	10
4 明治時代以降のくらし	12
5 民間航空発祥の地・稲毛	16
6 行楽地・保養地としての千葉市の海辺	18
7 うめ立てと海辺の移り変わり	22
8 うめ立てを通してすがたを変えた海辺	25

2章 海辺の産業

1 産業を支える千葉港	30
2 千葉港の施設と働く人びと	32
3 海辺の主な企業	36

3章 海辺の環境

1 環境問題	42
2 海辺の防災	44

4章 資料集

資料1 海辺の生き物（鳥）	48
資料2 海辺の生き物（魚・貝類など）	50
資料3 うめ立て地の場所と年表	52
資料4 千葉ポートタワーから望める風景	54
資料5 千葉ポートタワーから見える施設	56

空から見た千葉市の海辺

千葉市の海辺には長い歴史と、
さまざまな役わりがあります。
いろいろな面から海辺を見てみましょう。

いっしょに千葉市の海辺について知って
いこう。



コアジサシ先生



1章 海辺の歴史

現在千葉市があるあたりの海辺は、
はるか昔から海のめぐみを受けながら
発展してきました。人びとが住みはじ
めた時代から、わたしたちのくらす現
代まで、人びとがどのような生活を
送ってきたのかしょうかします。

2章 海辺の産業

千葉市の海辺には、世界中から船が
集まる港やたくさんの会社が集まり、
わたしたちの生活を支えています。こ
こでは、千葉港の特色や働いている人
びと、会社をしょうかします。

3章 海辺の環境

海に面した千葉市でくらすわたした
ちが知っておくべき環境のこと、津波
や高潮などの災害から身を守る方法に
ついて学びます。

4章 資料集

海辺でくらす生き物たちな
ど、千葉市や海辺のことを理解
する手助けとなる、くわしい情
報をしょうかします。

時代や年代のあらわし方



まずは千葉市の海辺の歴史を見ていくよ。
その前に、時代の流れを確認しよう。

時代	千葉市の海辺の歴史	西暦	世紀
旧石器(約30000~16000年前)	豊かな海のおかげで、貝塚をともなったむらが多数生まれた。貝塚の数は日本一。	A.D.1年 (紀元元年)	B.C (紀元前)
縄文(約16000~2800年前)		100年	1
弥生		200年	2
古墳	人びとが行き来する陸と海の交通が集まる場所として、発展した。	300年	3
飛鳥		400年	4
奈良		500年	5
平安		600年	6
鎌倉		700年	7
南北朝	千葉のまちがたん生。鎌倉などを結ぶ湊町として、重要な場所になった。	800年	8
室町		900年	9
戦国		1000年	10
安土桃山	房総と江戸を結ぶものの流れの中けい地として栄えた。	1100年	11
江戸		1200年	12
明治		1300年	13
大正	行楽地・保養地として多くの人でにぎわう。	1400年	14
昭和		1500年	15
平成~令和	うめ立てにより新しい土地ができ、人口が急増。港湾機能が発達しさまざまなイベントも開かれる。	1600年	16
		1700年	17
		1800年	18
		1900年	19
		2000年	20
			21

1章

海辺の歴史



葛飾北斎「子繪の海 下総登戸」

千葉市の海にはとても長い歴史があります。

千葉の海辺がどのように変わっていったのか、見てみましょう。

B.C.
3000B.C.
1000A.D.
1

100

200

300

400

500

600

700

800

900

1000

1100

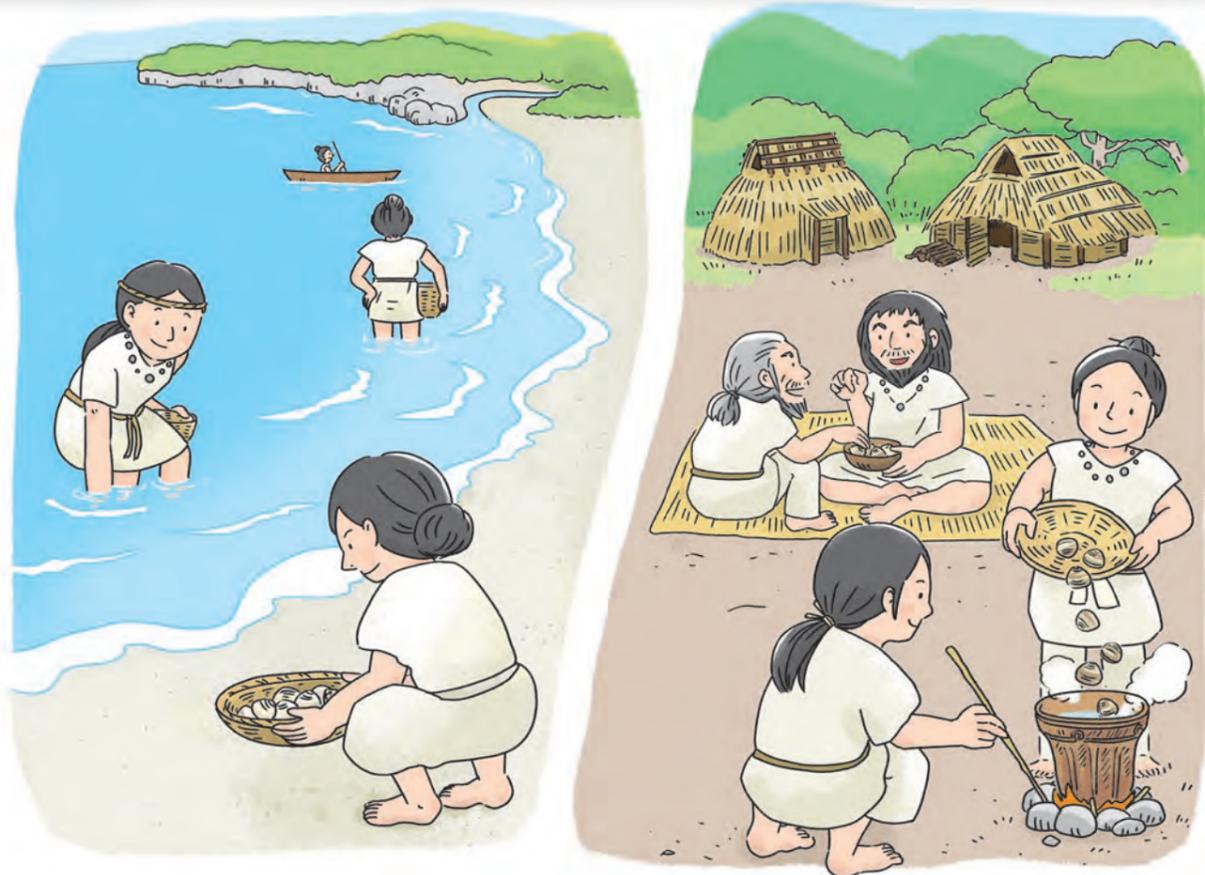
1200

1300

1400

1500

1600



1 貝塚と海

① 貝塚って何？



▲加曾利貝塚の貝層断面

いろいろな貝がらが積み上がっている。

貝塚とは、昔の人が食べたり、利用したりした貝が積み上げられた場所のことです。貝塚が単なるゴミすて場だったかという、そうではなかったようです。貝塚では、ていねいにまいそうされた人や犬のほねも見つかっています。こうしたことから、貝塚は特別な場所だったのではないかと考えられています。

② 加曾利貝塚と海

今から約6000年前、地球全体が今より気温が高く、海が今よりもずっと内陸の方まで入りこんでいました（縄文海進）。やがて気温が下がると海が後退し、大きな干潟が生まれました。干潟ではたくさんの食べ物がとれることに気づいた縄文時代の人びとは、むらをつくり、しだいに大きなむらへと成長させていきます。

そのなかでも、約5000年～3000年前の縄文時代につくられた加曾利貝塚は、日本で最も大きな貝塚の一つです。加曾利貝塚のように2000年にわたって続いた集落・貝塚はほかの地域にはなく、当時から千葉がとても住みやすい地域だったことがわかります。

当時は木をくりぬいてつくった丸木舟を使い、加曾利貝塚のすぐ近くを流れる坂月川から、潮の満ち引きを利用して海まで行き来し、貝や魚をむらに運んでいたようです。



▲市内の貝塚の位置



▲丸木舟（複製）



加曾利貝塚は2017年に特別史跡に指定されました。国宝級の価値がある遺跡なんですよ。

◀加曾利貝塚PR大使 かそりーぬ

舟着き場と思われる場所

▲上空から見た加曾利貝塚

かそりかいづか しゅうどひん
加曾利貝塚の出土品

貝塚からは、縄文時代の人びとが食べた貝のほかにも、道具や動物のほねなど、たくさんのもので出土しています。それらの出土品を調べることで、昔の人がどのような生活をしていたかを知ることができます。

では、加曾利貝塚から出土したものを見てみましょう。どんなことがわかるでしょうか。

出土した貝



出土した道具・アクセサリ



千葉ではとれないはずの材質でつくられた石器もあります。このころから、ほかの土地の人と交流があったんですよ。



はなしのタネ

加曾利貝塚PR大使 かそりーぬ

加曾利E式土器

加曾利貝塚から出土したことで、名づけられた土器。縄文時代の研究にとっても役立っています。



加曾利貝塚で発見された犬

ていねいにまいそうされていて、当時の人が犬を大切にしていたことがわかります。



貝塚でもっとも多く見つかる貝・イボキサゴの首かざり

加曾利貝塚で見つかる貝の8割以上がイボキサゴです。一年じゅうとることができる、手ごろな貝です。料理のだしにも利用されていたという説があります。今は木更津周辺でとれますが、お店ではほとんど手に入りません。



2

なら へいあん どうこく みやこ
奈良時代・平安時代の東国と都のつながり



千葉県の「北(上)」にあるほうが「下総」で、「南(下)」にあるほうが「上総」…? なんでも上下逆なんだろう?



奈良時代、役人が都と各国を行き来しやすくするために東海道が整えられました。当時の東海道は、相模の走水(神奈川県横須賀市)から房総半島へ船でわたりました。当時は都(平城京)に近いほうが「上」、遠いほうが「下」とされていたので、房総半島へ上陸するところが上総、そこから北上したところが下総とよばれるようになったのです。

役人たちの行き来を便利にするため、「駅家」とよばれる施設がつけられ、役人に馬や宿、食事などを提供しました。千葉市にも河曲駅(中央区寒川町周辺)と浮嶋駅(花見川区幕張町周辺)があったと考えられています。

はなしのタネ

『更級日記』に登場する池田の池

平安時代に菅原孝標女が書いた『更級日記』には、現在の千葉市中央区を通ったとき、水はけが悪く、水があふれてなかなか進めなかったことが書かれています。のちの調査でも、そのあたりに大きな池があったことがわかっています。これが羽衣伝説に登場する「池田の池」ではないかという説もあります。

『更級日記』に登場する池田の池をあてはめた地図



1 武士が興した千葉のまち



鎌倉時代の千葉のまち

平安時代後半(10~12世紀)のころ、皇族や貴族の子孫たちは、自分の土地を守るために武士団を結成しました。

千葉氏は、千葉に本拠地をおいた有力な武士団でした。千葉氏の館は、千葉の湊(船が集まる場所)に通じる都川の近くにあったと考えられています。湊は、東京湾の向こう岸の鎌倉(神奈川県)から船で物が運ばれてくる千葉の経済の中心でした。千葉氏はこの地をおさえ、陸と海のものや人の行き来を支配していたと考えられます。

江戸時代より前は、千葉県北部は香取神宮の近くまで内海が広がっており、周辺には千葉氏が支配している土地もありました。農作物や海産物などを、千葉の湊まで水路や陸路を使って運び、そこから幕府のあった鎌倉まで船で運んでいたと考えられています。



鎌倉時代の千葉の地形



千葉氏(写真は千葉常胤の木像) 千葉のまちを興した武士の一族。千葉から房総の大部分をおさめていた。

2 江戸時代の交通

千葉町は陸と海の両方から物産が集まる中継地として栄えました。年貢(税)の米や、商品となる魚かい類、炭、房総半島の各地の特産品が陸路で千葉に集められ、船で江戸に運ばれました。江戸からの物資も船で千葉町にとどいてから、陸路で各地に運ばれました。



運ばれていたもの



年貢米 農民が税として納めた米。



ほしか イワシをほして固めた肥料。



しめかす 魚の油をとった残りかす。

当時使われていた船

東京湾では主に、五大力船が使われていました。この船は、海と川の両方を航行できるように、ふつうの船よりも底が浅く、はばはせまくつくられていました。海では風を受ける帆を使って進み、川ではさおを使って進みました。



浮世絵師の歌川広重は、木更津の沖に停はくしている五大力船をえがきました。

登戸浦・寒川の発展

江戸時代には、登戸浦や寒川が湊として使われていました。寒川には佐倉藩の米蔵が建てられ、この2港と江戸との間でさかんに物資が行き来するようになりました。浜野や検見川などにも湊がありました。



浮世絵師の葛飾北斎は、富士山を見ることが出来る場所をテーマにした「富嶽三十六景」で、登戸浦で貝をとっているようすをえがきました。

1 遠浅の海の特ちょう

遠浅とは、岸から沖のほうに向かって、水が浅い浜が広がっていることをいいます。

遠浅の砂浜では、長い年月をかけて砂や泥がゆっくりと積み、「干潟」とよばれる場所ができあがります。干潟は、潮が引いたときにあらわれ、潮が満ちてくると海の中にかくれます。干潟の水位は浅いため、日光や二酸化炭素が海中に届きやすく、それらから栄養をもらう植物プランクトンが多く発生します。この植物プランクトンを食べて貝が育ち、この貝を食べに魚や鳥が集まります。干潟は、多くの生き物の命を育む場所なのです。千葉の人びとは、こうした干潟のめぐみを受けて生活を営んできました。



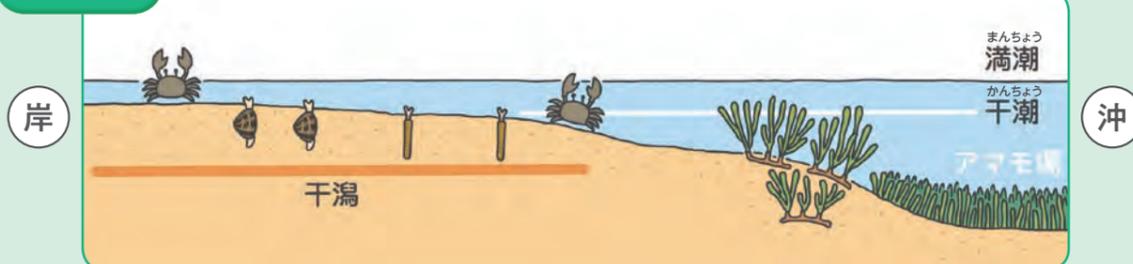
干潟のめぐみを受けて生活を営んできました。

写真のおくのほうまで、ずーっと干潟が広がっているね。



黒砂付近で貝をとりに沖へ向かうようす
(写真提供：千葉県立中央博物館・林辰雄氏撮影)

遠浅の海



満潮



干潮



2 千葉市の海で行われていたさまざまな漁業

① 貝

貝の採取

遠浅で、干潟が広がる稲毛海岸では、春になるとアサリやハマグリなどの貝の採取がさかんに行われていました。砂の中にもぐっている貝をかき出すため、熊手を使ってほりおこしたり、「かごまき」とよばれる道具を使ったりして貝を採取しました。

貝のはん売

採取した貝は、漁業組合や業者に売ったり、民家をたずねて商品を売り歩く行商をして売ったりしました。また、海岸に近い「海の家」では、貝から中身を取り出して売る店もありました。海に近いところの道は、くだけた貝がらの粉で白くなるほど、貝は生活に身近なものでした。

(写真提供：千葉県立中央博物館・林辰雄氏撮影)



▲貝をとるようす

と採れた貝の種類



ハマグリ



アサリ



バカガイ



▲貝を売る店 (1964年ごろ)

貝の採取に使用した道具



かごまき

干潟の地面にさしこんで持ち上げると貝がとれる。



ふるい

砂やよごれ、小さな貝をふるい落とす。



貝をむく道具

貝のすき間にさしこんで貝を開いてとる。

② のり

のりの養しょく

千葉市では、漁師の長年のくふうによって、のり種（のりのもととなるもの）のつくり方が生み出されました。夏から冬にかけて海中でのりを育て、真冬にしゅうかくします。しゅうかく後はのりをほして整え、四角い形にして売りました。



のりをほすようす▶

(写真提供：千葉県立中央博物館・林辰雄氏撮影)

のりづくりの手順

夏・秋



ヒビをつくる

夏に、海中でのりを付けて育てるための「ヒビ」を木の枝や竹、あみなどでつくる。9月下旬ごろから、つくったヒビを海底に立てる。

冬



のりをつみ取る

ヒビに付いたのりが15センチメートルくらいに生長したら、のりをつみ取る。とれたのりを、きめ細かく編まれた専用のかごに入れて、海水でよくあらう。

冬・春



のりをほす

わらをしきつめた台に「のりす」をうら返しにならべ、くして止めてかわかす。大体かわいたら、表に返し、1時間ほどかんそうさせる。

冬



のりをすく

つみ取ったのりを細かくきざみ、水とまぜる。これを「のりす」がしかれた木のわくに流しこみ、紙すきのようにきれいにのばす。

③ 特ちょう的な漁業

かつて、千葉では特ちょう的な漁が行われていました。ここでは打瀬舟と夜灯漁について見てみましょう。

打瀬舟でのんびき漁

打瀬舟とは、海底にいる魚かい類を、底びきあみでとらえるための舟です。船体の横にあみをしかけ、風力を利用して移動しながらあみを引きます。東京湾でさかんに行われていた漁で、エビやカレイなどがとれました。この漁は、当時の検見川や幕張などで行われていました。現在の打瀬(千葉市美浜区)という地名は、この舟の名前が由来です。



▲風を受けて進む打瀬舟。

夜灯漁

月の出ない新月の夜に、カンテラ（持ち運びできる石油ランプ）のあかりで干潟や浅瀬の潮だまりを照らし、魚やエビなどをとる漁のことです。

現在、夜灯漁は行われていませんが、稲毛の商店街が中心となって、夜灯漁の伝統を伝える「稲毛あかり祭・夜灯」が行われるようになりました。地域の小学生やボランティアの人たちがつくった約6000個の竹の灯ろうが町をいどり、おとずれる人の心を和ませています。

※潮だまりとは、潮が引いたときにできる水たまりのことです。



▲夜灯漁を再現したジオラマ。



いろいろな漁業が行われていたのも、「遠浅の海」があったからこそなんだよ。昔の千葉の人たちは遠浅の海のめぐみを受けながら、海とともに生活していたんだね。



▲やさしいあかりが印象的な稲毛あかり祭・夜灯。

1 ひがた かつそうろ
干潟を滑走路に

どうして稲毛海岸が
選ばれたのだろう？



◀ 稲毛の広い干潟が滑走路になった。

日本で最初に民間専用の飛行機がつくられたのは、軍による初飛行から2年後の1912年のことです。

海軍で飛行機の研究をしていた奈良原三次は、軍を引退したあとも飛行機の研究を続け、民間人でも自由に研究できる新たな場所を探していました。

そんな時、カモガリのためにおとずれていた稲毛海岸で、荷馬車が干潟を通るのを見て、飛行機の滑走路として使えるのではないかと思いつきます。潮が引くと、かたく引きしまった平らな干潟が沖合3キロメートルくらいまであらわれる稲毛海岸は、滑走路として、まさにちょうどよい場所だったのです。

2 はってん
日本の民間航空の発展

奈良原のもとで、何人ものゆうしゅうなパイロットが育ちました。白戸栄之助もその一人です。かれは1912年に鳳号をそうじゅうして日本の民間そうじゅう士第1号となりました。このように、稲毛海岸からはじまった日本の民間航空は、どんどん発展していきました。

滑走路があった場所は、現在は公園になっています。公園内には、世界で初めて動力飛行に成功したライト兄弟が飛行実験を成功させた、キティホークという都市からおくられた松の木がしげっています。



▲ 稲毛海岸にある稲岸公園には「民間航空発祥の地」の記念碑が立っている。

国産飛行機「鳳号」の特ちょう

名前：奈良原式4号機

乗員：2名

動力：50馬力

はば：上のつばさ11.4m, 下のつばさ9.3m

長さ：7m

重さ：470kg

最大速度：時速70km



千葉市の消防ヘリコ
プター「おおとり」
の名前の由来だよ。

▲ 消防ヘリコプター
「おおとり」

3 民間航空のとびらを開いた人物

大阪で働いていた伊藤音次郎は、ライト兄弟が飛行機で空を飛ぶ活動写真（当時の映画）を見たことをきっかけに、飛行機に興味を持ちました。そして、千葉に来て奈良原の手伝いをしながら、飛行機のことを勉強しました。民間そうじゅう士となった伊藤は、1916年に、民間の飛行機として初めて稲毛から東京まで飛ぶことに成功し、人びとをおどろかせました。

また、稲毛に伊藤飛行研究所（後に現在の習志野市に移転）をつくり、航空機の製作や、そうじゅう士を育てることに取り組みました。



奈良原三次 (1877-1944)

飛行機的设计製作を行い、国産の民間機で初飛行に成功する。



白戸栄之助 (1886-1938)

公開飛行会で「鳳号」をそうじゅうし民間そうじゅう士第1号となる。



伊藤音次郎 (1891-1971)

民間機として初めて帝都（東京）訪問飛行に成功する。

はなしのタネ

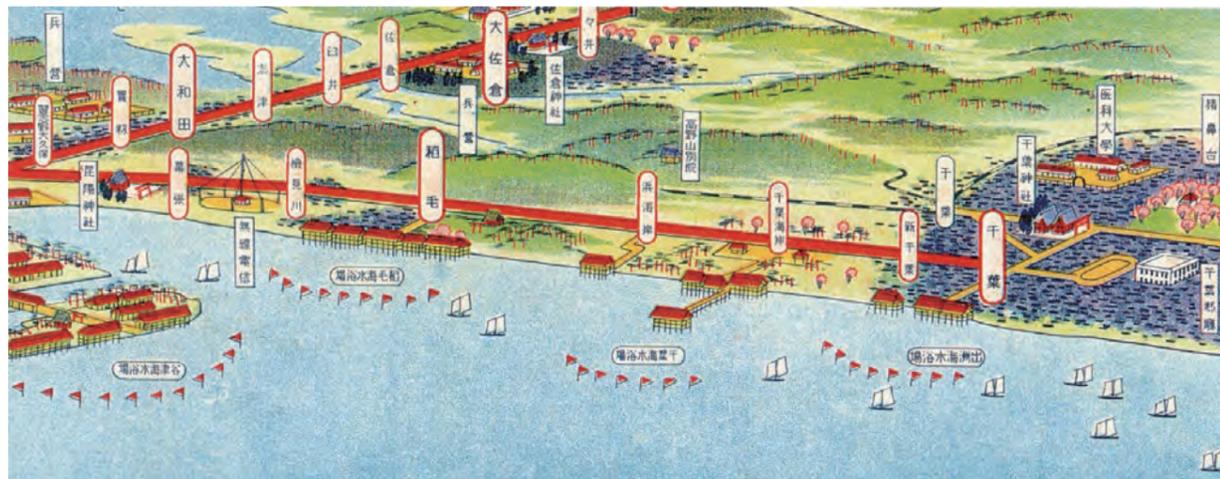
蘇我にあった軍用飛行機工場

第二次世界大戦で、日本はたくさんの飛行機を必要としていたため、1942年、蘇我・今井海岸のうめ立て地に、日立航空機千葉工場が建設されました。ここでは、ゼロ式戦とう練習機などがつくられ、学生たちも生産にあたりました。1945年6月10日の千葉空しゅうではアメリカ軍機の標的とされ、千葉の町は大きな被害を受けました。戦後、工場のあった広い土地は川崎製鉄千葉製鉄所（現・JFEスチール東日本製鉄所（千葉地区））となり、千葉市の発展をもたらしました。

1 行楽地のようす

遠浅の千葉市の海辺は海水浴や潮干がりに絶好の場所でした。1888年、稲毛海岸に初めて海水浴場が開かれると、東京から1時間弱と交通の便もよかったため、日帰り行楽地としてにぎわいました。

毎年夏になると、総武鉄道では臨時列車を走らせるほど、たくさんの方が海水浴におとずれました。東京とその周辺の地域の人たちにとって千葉市の海辺は一大リゾート地だったのです。



▲京成電車沿線名所案内（京成電鉄 発行）



もともとあった総武鉄道（現在の総武本線の一部）に加えて、京成電鉄が開通したことで、行楽におとずれる人たちがどんどん増えたんだよ。



▲袖ヶ浦稲毛海水浴場（大正時代から昭和初期）

千葉市の海は遠くまで水深が浅く、海に入ってずっと沖のほうまで歩いていくことができました。当時は海水浴のほかにも、小舟に乗ったり、砂遊びなどを楽しんでいました。潮が引いた後の干潟で、アサリなどの貝をほり出す潮干がりも当時は人気の行楽でした。

2 保養地

① 海気館



▲稲毛海気療養所



▲海気館

当時、海水浴というのは病気を治す方法として考えられていました。稲毛海水浴場がオープンした年、海岸には「稲毛海気療養所」が設立され、医師が常駐していました。

後に、所有者が変わり、別荘風旅館「海気館」として生まれ変わり、海水浴や潮干がりにおとずれた人びとが利用するようになりました。海岸と松林の美しい稲毛の景色に心を引かれ、多くの作家もおとずれました。

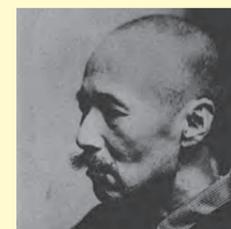
「海気館」をおとずれた文豪たち



島崎藤村
現実をありのまま書く自然主義文学を築いた。『破戒』『夜明け前』『若菜集』など。



徳田秋声
自然主義文学の作家。小説『縮図』は千葉市を舞台としており、千葉銀座に文学碑がある。



森鷗外
ドイツ留学後、軍医の仕事しながら、本を書いた。『舞姫』『高瀬舟』など。

作家の田山花袋が書いた海気館

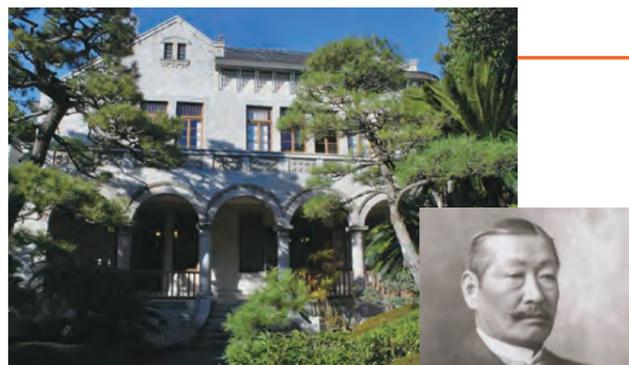
田山花袋は、明治から大正時代に活やくした作家です。田山は、1908年に海気館で3日間を過ごし、そのときの稲毛や海気館のようすを短編小説『弟』にも記しています。

「別荘式の（別荘のような）小さな家屋があちこち彼方此方（あちらこちら）松原の中に独立して居て、なんだか好い感じがする。」（『弟』より一部引用）

② 今も残る別荘地のなごり

かみやてんべえ 神谷伝兵衛の別荘

(現・千葉市民ギャラリー・いなげのしき地内)



神谷伝兵衛

「日本のワイン王」といわれ、実業家として有名な神谷伝兵衛の別荘として1918年に建てられました。昔の稲毛のようすをわたしたちに教えてくれる貴重な建物であり、今では国登録有形文化財として、一般公開されています。

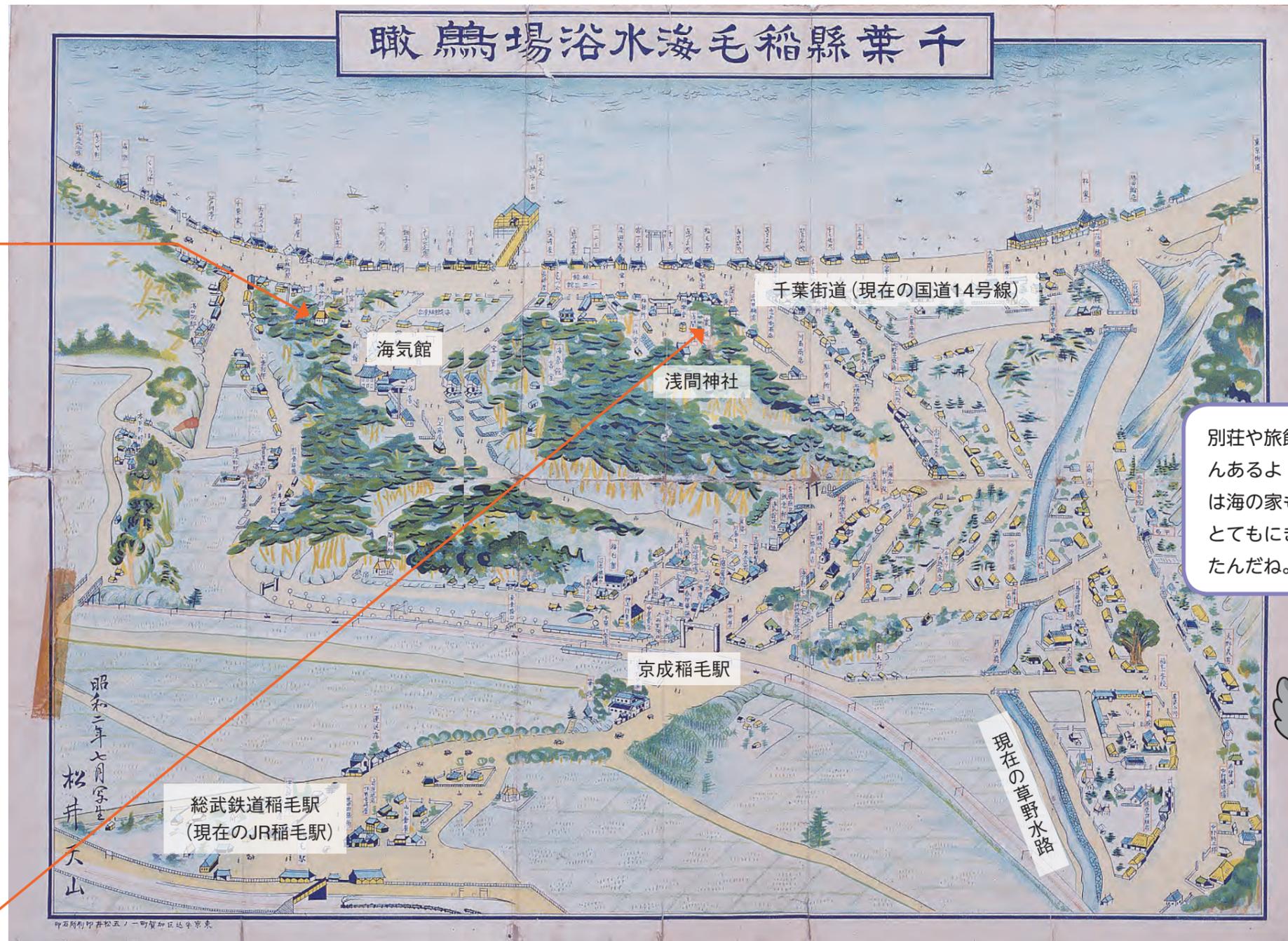
あいしんかくらふけつす 愛新覚羅溥儀が新こん時代を過ごした住たく (現・千葉市ゆかりの家・いなげ)



愛新覚羅溥儀夫妻

明治以降、いくつも建てられた別荘の一つで、1937年には中国清朝の皇帝、愛新覚羅溥儀の弟である愛新覚羅溥儀が妻とともに半年ほど新こん生活を送りました。当時のようすを今に伝える貴重な和風別荘建築になっています。

※右の鳥瞰図は1927年にかかれたものなので、この建物はまだありませんが、場所だけ示します。



別荘や旅館がたくさんあるよ！ 海岸には海の家もあって、とてもにぎわっていただね。



▲当時の稲毛海水浴場

はなしのタネ

フランス人の画家ビゴー



▲ビゴー

ビゴーは、浮世絵などの日本美術に興味があり、21歳のときに来日しました。1892年からの5年間は、稲毛海岸の海気館のそばに住み、稲毛海岸の風景や海辺で働く人びとのすがたをたくさんえがきました。



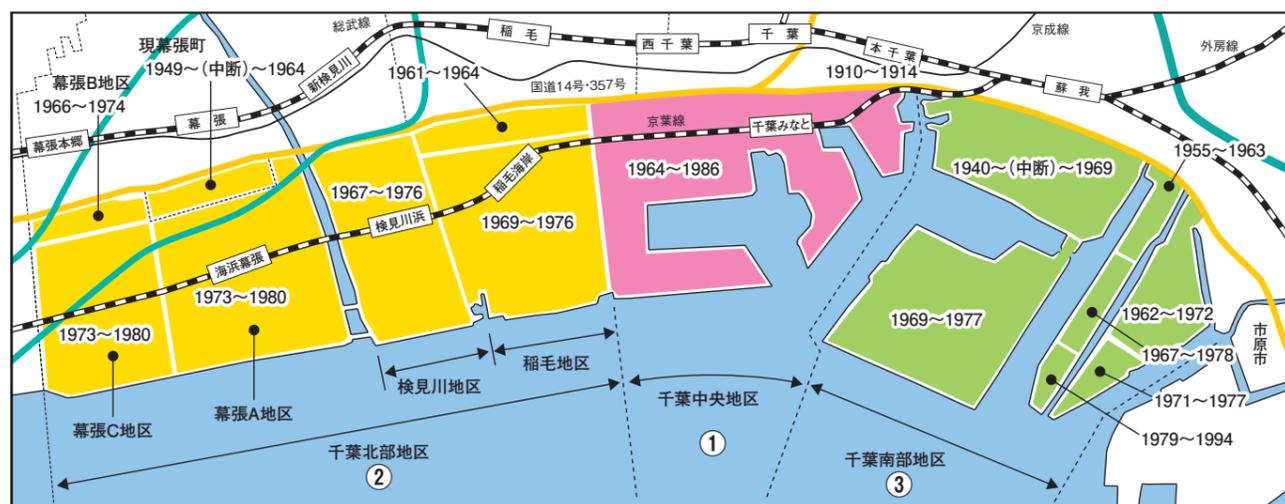
▲ビゴーがえがいたノルマントン号事件の風刺画。1886年、イギリス人の船長が、船の事故で日本人の乗客だけを助けなかったとされる事件。

1 うめ立てのようす

かつて、遠浅の海の美しい風景が見られた19キロメートルにおよぶ海岸線は、現在の国道14・357号付近にありました。

千葉県では、県産業の工業化が進められ、県民の収入や働く場を増やすため、1950年代から半世紀をかけて、東京湾沿岸の浦安市から富津岬にいたる遠浅の海をうめ立て、京葉工業地域がつけられました。また、1960年代以降、東京やその周辺地域の急激な人口増加に対応するため、工業団地とともに大きな住たく団地も建設されました。

これにより、千葉市の面積の約8分の1にあたる土地が生まれ、新たな産業とまちがつけられていきました。



▲臨海部のうめ立て

1 千葉中央地区

戦後、千葉港の整備が再開され、1954年に国際貿易港として正式に開港し、発展を続けました。また、1986年には、千葉港のシンボルの千葉ポートタワーがオープンしました。



▲1955年ごろの寒川の船だまり



▲1965年のうめ立てのようす



▲1961年1月の中央港付近



▲現在の中央港付近

2 千葉北部地区



▲1955年ごろの幕張海岸の入口



▲現在の幕張海岸



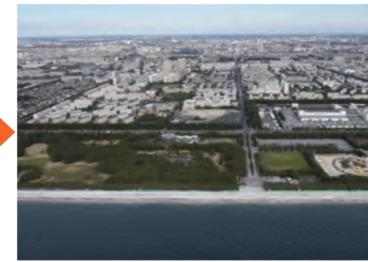
▲1960年代後半の検見川海岸



▲現在の検見川海岸



▲1960年ごろの稲毛海岸



▲現在の稲毛海岸

遠浅の海は、海水浴や潮干がりに適し、東京方面などからの日帰りの行楽地としてにぎわいました。1961年以降にうめ立てが行われ、住たく地がつけられました。その後、海浜ニュータウン建設計画が進められ、幕張・検見川・稲毛に広大な住たく地が生まれ、幕張地区には「幕張新都心」がたん生しました。一方で、うめ立てで失われた自然を取りもどそうと、3つの人工海浜がつけられました。

3 千葉南部地区

1940年以降、東京湾に工場地帯をつくる事業の一環として蘇我・今井の海岸がうめ立てられました。第二次世界大戦中には、日立航空機千葉工場が軍用飛行機をつくっていました。戦後は、1950年に川崎製鉄の進出が決まり、続いて東京電力が進出して、京葉工業地域の発展がはじまりました。



▲昭和初期の浜野海岸

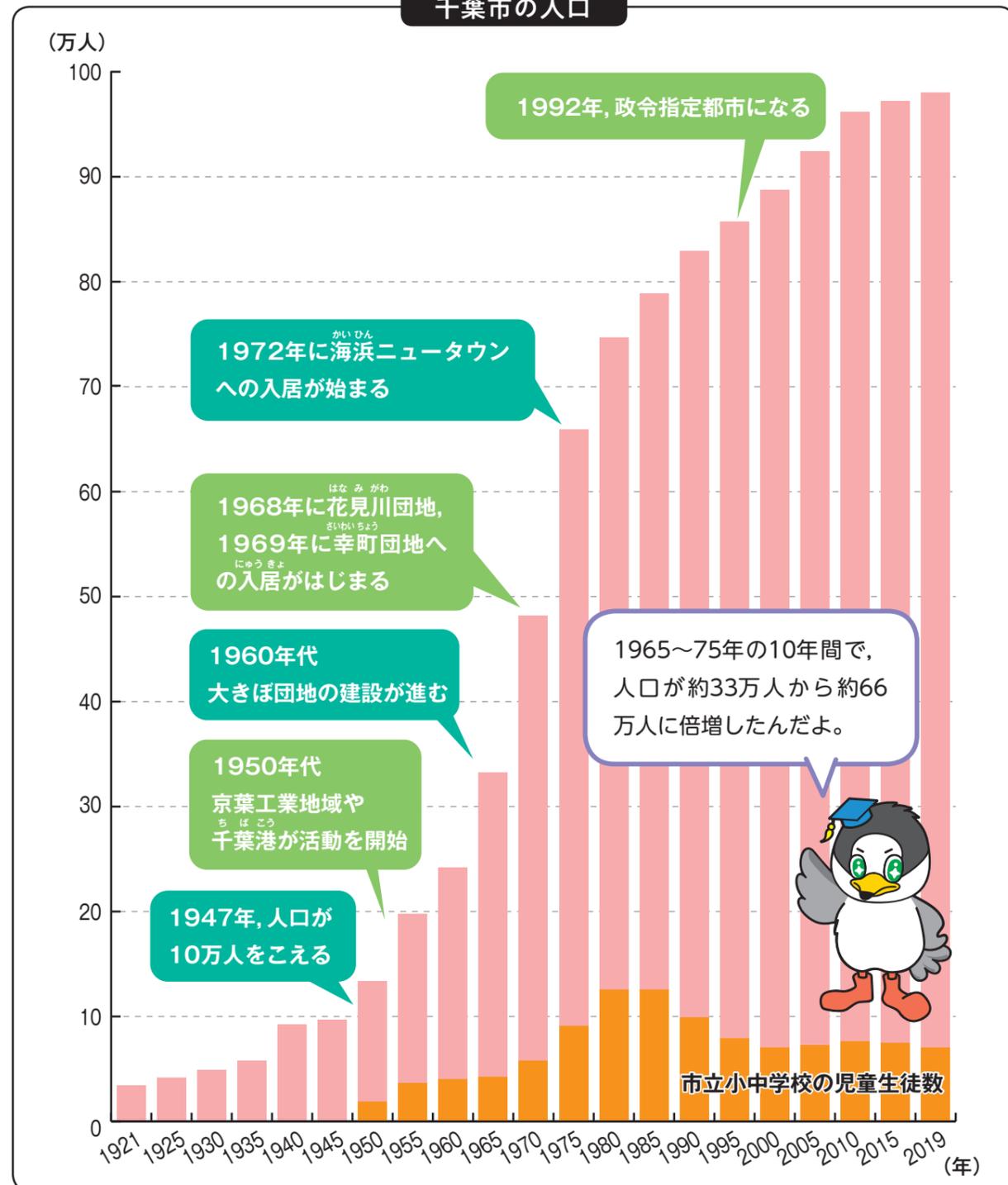


▲現在の千葉南部地区

2 人口の増加

1921年に千葉県で初めて市となったときの人口は約3万3千人でした。その後、周辺町村の合併や臨海部のうめ立てによって市域を広げるとともに、1960年代には臨海部や内陸部に大きな団地の建設が進められ、人口は急増していきました。1992年4月には人口約83万5千人、全国12番目の政令指定都市となりました。

千葉市の人口



8

うめ立てを通してすがたを変えた海辺

1 3つの人工海浜



千葉市の人工海浜からは、富士山や東京の高層ビル群をはじめ、東京湾を一目で見わたすことができます。また、幕張海浜公園や稲毛海浜公園と一体となっているため、まちにありながら広い海辺を体感できるめぐまれた場所です。東京都心からも近いので、多くの人々が、イベントやマリンスポーツを楽しむためにおとずれます。

千葉市のビーチは3つの人工海浜が連なっており、幕張の

浜(1.8キロメートル)・検見川の浜(1.3キロメートル)・いなげの浜(1.2キロメートル)を合わせた長さは約4.3キロメートルで、日本一の長さをほこります。

① スポーツ・レクリエーションの拠点 幕張の浜

「幕張の浜」は、幕張海浜公園や幕張メッセなどとなりあい、海辺を活用した大型イベントが開かれています。また、プロ野球の試合が行われるZOZOマリンスタージアムなど、スポーツに親しむエリアとしても人気があります。



▲音楽イベント「サマーソニック」の風景



▲ZOZOマリンスタージアム



▲幕張ビーチ花火フェスタ

② マリンスポーツがさかな海辺 検見川の浜

幕張の浜といなげの浜には生まれた人工海浜「検見川の浜」では、1年を通してヨットやウィンドサーフィンなどのマリンスポーツが楽しめます。

(公社)千葉市観光協会 提供



マリンスポーツ

夏にはウィンドサーフィンにあった南風がふき、多くの人でにぎわいます。スタンドアップパドルやカイトサーフィンもさかんに行われます。



稲毛ヨットハーバー

レジャーだけでなく、海洋スポーツに関するイベントやヨット教室、全国高等学校総合体育大会や国民体育大会などにも利用されています。



ザ・サーフオーシャンテラス

マリンスポーツや美しい日没などの海辺の風景はもちろん、波の音、潮の香りなどを楽しみながら、食事ができます。

はなしの夕ネ

ダイヤモンド富士

しずもうとする太陽が富士山の山頂にちょうど重なり、ダイヤモンドのように輝く「ダイヤモンド富士」。毎年2月と10月ごろに海辺の5つのエリアを毎日少しずつ移動することで、約10日間にわたってこの現象を観賞することができます。

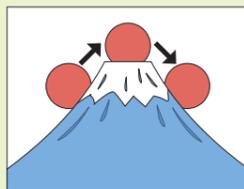


千葉市でダイヤモンド富士が見られる日は毎年少しずつちが違うよ。今年はいつから始まるかな。



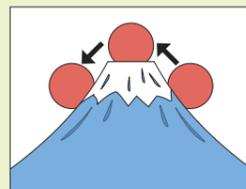
2月の見え方

太陽のしずむ位置が、富士山の南側から北側に移動していく



10月の見え方

太陽のしずむ位置が、富士山の北側から南側に移動していく



ベストスポット

幕張の浜 (ZOZOマリスタジアム)、検見川の浜 (ヨットハーバー)、いなげの浜 (ビーチセンター)、千葉みなと (ポートタワー)、蘇我 (フェスティバルウォーク)

③ アクティブにレジャーを楽しむ いなげの浜

うめ立てにより失われた稲毛海岸の砂浜を取りもどそうと、日本で初めてつくられた人工海浜です。いなげの浜では遠浅の海がよみがえり、海岸ぞいの稲毛海浜公園は市民のいこいの場として親しまれています。

(公社)千葉市観光協会 提供



海水浴場

都心から一番近い海水浴場があります。稲毛海浜公園プールとあわせて利用でき、千葉県内だけでなく県外からも多くの人がおとずれます。2019年10月には、白い砂浜に生まれ変わりました。



磯の松原散策路

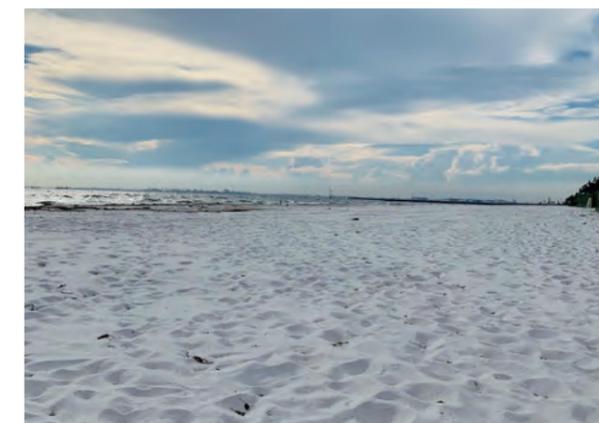
日本の白砂青松100選にも選ばれる「磯の松原」は、市制60周年を記念して市民の手で松が植えられ、かつての美しい海岸の風景が再び現されています。2017年には散策路が整備され、松の葉をふみしめながら、海辺を歩くことができます。

稲毛海浜公園リニューアル

より多くの人を楽しめる公園になるように、海辺を生かしたリニューアルが進められています。2020年の春には、バーベキュー場がオープンしました。また、海へのびるウッドデッキ、温浴施設、グランピング施設の整備や、プールの改修が予定されています。



▲リニューアルイメージ (ウッドデッキ)



▲生まれ変わった「いなげの浜」

2 2つのポートエリア

① 千葉みなと

千葉みなと駅の南側は、千葉中央警察署などの官公庁施設のほか、千葉ポートタワーや県立美術館などがあり、文化といこいの空間にめぐまれた環境が広がる地域です。海まで行くと千葉港初となる旅客船さん橋や港湾緑地があり、ケーズハーバーをふくめた9施設が2018年3月に「みなとオアシス千葉みなと」として国から登録されました。千葉みなとクリスマスマーケットなど、さまざまなイベントを行っています。



▲「みなと」でのイベントのようす

※1 ケーズハーバーとは、千葉みなと旅客船ターミナルなどの施設で、レストランやカフェなどがあります。
 ※2 みなとオアシスとは、「みなと」を核としたまちづくりを進めるため、「みなと」において住民参加による地域を盛り上げるための取り組みが継続的に行われる施設として国が登録したものをいいます。



▲Eポート大会のようす

② 蘇我

臨海部の大きぼな工場だった土地を有効活用した地域で、まちづくりの中核となるハーバーシティ蘇我には、遊歩道もあり、心地よい海の風を感じることができます。また、商業・アミューズメント機能と一体となった、海とふれあえる親水エリア（フェスティバルウォーク蘇我）では、Eポート大会やカヌーの体験会などが開催されています。

工場夜景

千葉市の臨海部には、日本有数の貨物取りあつかい量をほこる千葉港にそって、工場やコンビナートが立ちならび、夜になるとその工場夜景を鑑賞することができます。千葉市がほこる「こはく色の夜景」を鑑賞してみましょう。

千葉市は、日本11大工場夜景に名を連ねています。▶



撮影：平野博之



千葉市の海辺には貿易港やたくさんの企業が集まっています。

どんな産業があるのか、どんな人たちが働いているのか、見てみましょう。

1 千葉港の役割



世界じゅうから船がやってくる、とても大きな港なんだよ。



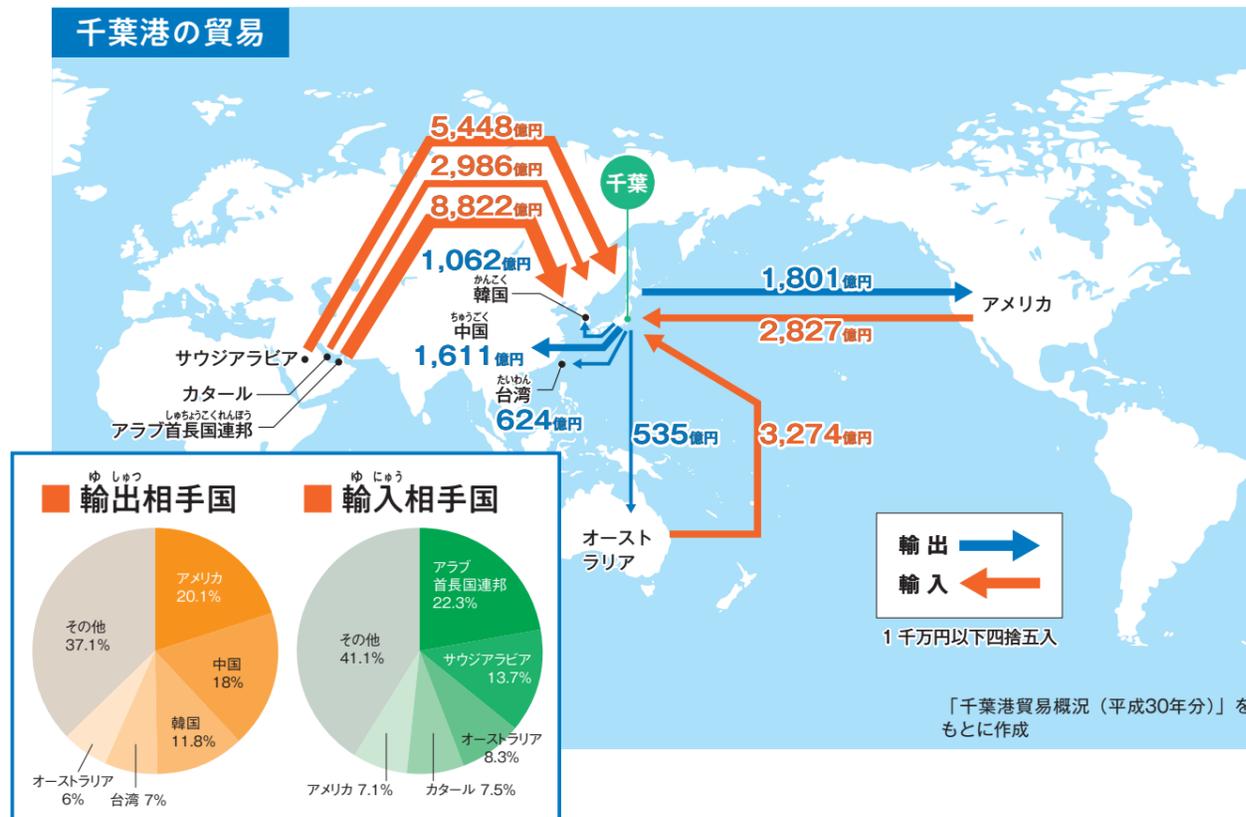
千葉港は、東京湾の一角にあり、京葉工業地帯を支える重要な港です。

東京湾には千葉港をはじめ、東京港、川崎港、横浜港、横須賀港、木更津港など、大きな港が6つあります。なかでも千葉港は、市川市、船橋市、習志野市、千葉市、市原市・袖ヶ浦市の6市にまたがっており、海岸線の長さが約133キロメートルあるもっとも大きな港で、約24800ヘクタール（東京ドームおよそ5304個分）の水域面積は日本一です。

千葉港は、国際的なやりとりをする重要な港として、国から国際拠点港湾の一つに指定されています。

2 いろいろな国との取り引き

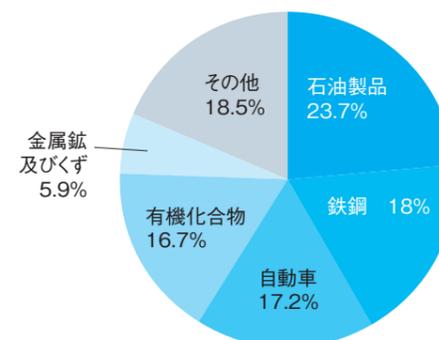
千葉港の貿易



千葉港では、国際拠点港湾としていろいろな国と取り引きが行われています。

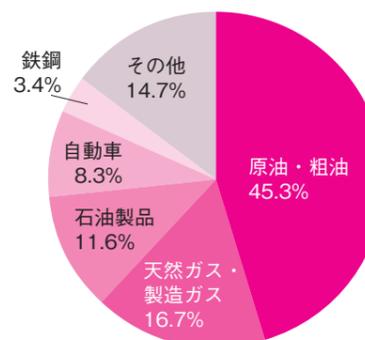
また、貨物の取りあつかい量は全国2位で、2018年には年間1億5320万トンの貨物を取りあつかっています。このうち外国との貿易の貨物量は約9240万トンでした。主な貨物は、原油、天然ガス、石油製品、鉄鉱石で、輸出に比べ、輸入がとても多い港です。

主な輸出品と割合



輸出総額 約8961億520万円

主な輸入品と割合



輸入総額 約3兆9644億1682万円

「千葉港貿易概況 (平成30年分)」をもとに作成

千葉港ではどんなもののやり取りが多いのかな。



全国からみた千葉港のランキング

- ・貨物取りあつかい量 全国2位
- ・入港船舶総トン数 全国5位
- ・貿易額 全国6位
- ・入港船舶隻数 全国5位

1 港の施設（中央ふ頭）

千葉港には毎日たくさんの輸入品がとどきます。工業港として発展してきたため、港には企業の専用施設が多くあり、貨物量の92%が企業専用岸壁で取りあつかわれています。

千葉港の千葉中央ふ頭ではコンテナや自動車を、出洲ふ頭では、紙・パルプ（紙の原料になる植物のせんい）、化学工業品、鋼材（鉄を加工した板やパイプ）などを主に取りあつかっています。これらのふ頭は、耐震強化岸壁になっており、地震などの災害が発生したときでも、緊急物資を船で輸送することができます。



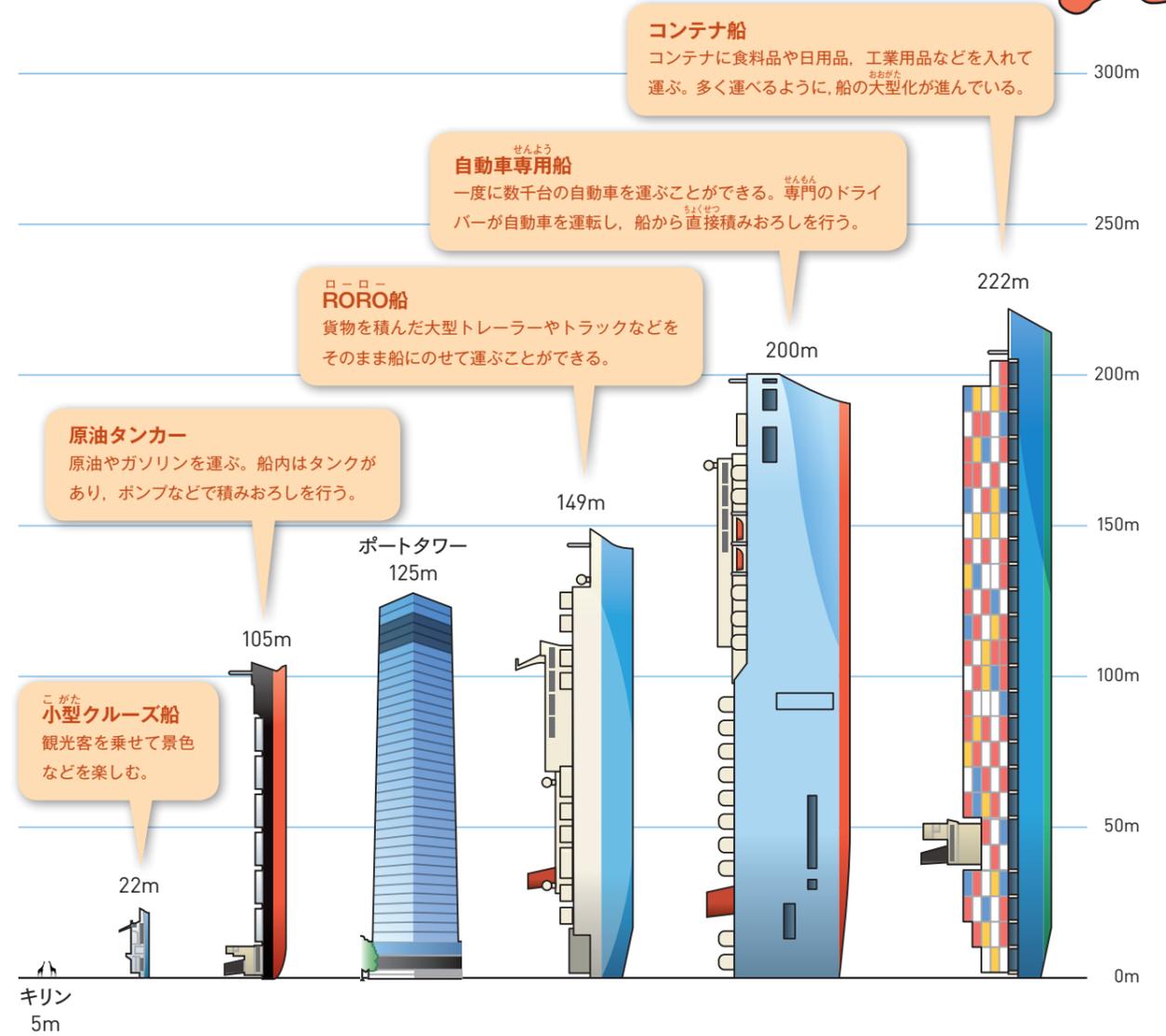
コンテナって何だろう？

コンテナとは、貨物をいれる箱のことです。鉄やアルミニウムなどじょうぶな素材でできていることから、中身が傷つく心配がなく、船からそのままトレーラーなどに積むことができます。コンテナの大きさは世界共通なので、世界中で効率的にコンテナを管理できるのです。



2 千葉港で見られる船

千葉港に入ってくる船は大きいもので長さが200メートル以上あるんだよ。



3 船で運ばれるもの

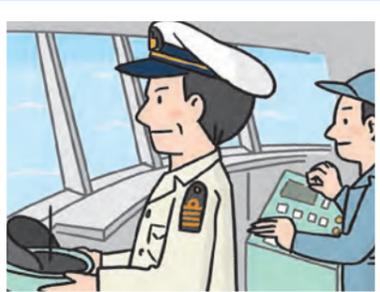
周囲を海で囲まれた日本では、外国に船や飛行機で貨物を運びます。それぞれの貨物を重さで比べてみると、なんと日本の貨物の約99%が船で運ばれているのです。船は、運ぶものに合わせてつくられた専用船もあり、重いものや大きなものを一度にたくさん運ぶことができます。世界最大級のコンテナ船は、1度に約20万トンの貨物を運ぶことができ、これは貨物飛行機の約1400回分にもなります。

船で運ばれるもの

原油、天然ガス、石炭などの鉱物資源、自動車、産業機械、小麦、トウモロコシなど

4 千葉港ではどんな人が働いているのかな？

船を無事に港に導く仕事



船員

船の中で働き、船を実際に動かしたり、エンジンなどを点検・整備する。



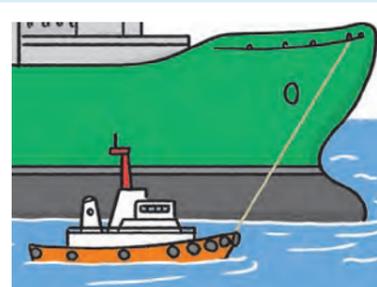
① 入港前

船長から入港予定の連らくを受けて、港へ岸壁の使用や水先人などの手配をする。



運用管制官

港全体の船の航行を整理する。また、安全のために船に無線で情報を提供する。



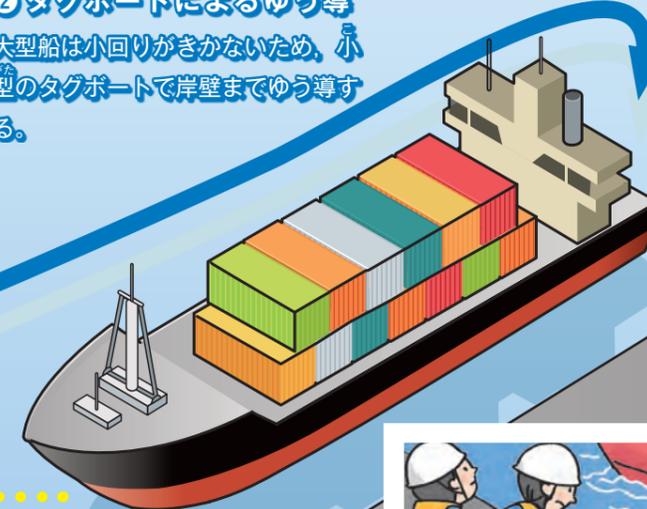
タグボート乗組員

大型船の移動を助けるタグボートに乗り、ロープなどを使って大型船を導く。

ものが港にとどくまでにはこんなにたくさんの人が働いているんだね。

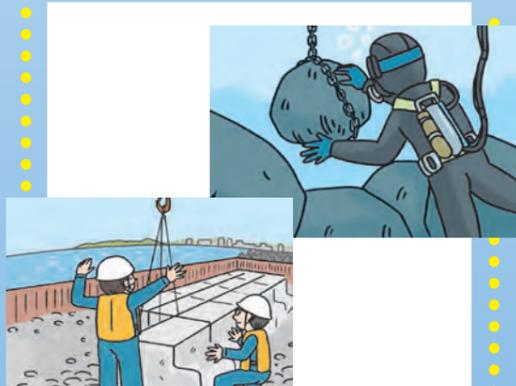


② タグボートによるゆう導
大型船は小回りがきかないため、小型のタグボートで岸壁までゆう導する。



港の安全を守る仕事

管理をする仕事



護岸工事や港の修築をする人びと

波や地震から港を守るために、岸壁にブロックを積んだり地ばんを強くする工事を行う。また、港のこわれている部分を直す。

海上保安庁

みつ航などの犯罪の取りしまりや、救助活動を行う。また、海の地図である海図の製作や、灯台などの管理も行っている。海の安全を守るために、日々休みなく活動している。



税関職員

輸出入品などを調べて、法律で禁止されているものが入っていないか、チェックする。



出入国在留管理庁

入国する外国人のパスポートやビザなどを審査し、入国してよいかどうかを決定する。



動物検えき所

輸入された動物、これから輸出される動物や動物から取れたものの検査をする。



植物防えき官

生産地の病害虫や土などが貨物についていないかどうか、検査をする。



水先人

混んでいる港内を船が安全に進めるように、船に乗りこんで、出発などの案内をする。



つな取り人

港に入る船からロープを受け取って、岸壁のくいにつないで着岸させ、出航のときに外す。

③ 着岸

つな取り人がロープを岸壁につなぐ。

④ 荷下ろし

ガントリークレーンで船からコンテナを岸壁に下ろす。



クレーンオペレーター

ガントリークレーンなどをそうじゅうして、コンテナなど貨物の積みおろしをする。



荷役作業をする人びと

貨物の積みおろしや運搬、倉庫での作業、輸出入の手続き代行などを行う。

⑤ 貨物の移動

コンテナをトレーラーで保管場所に運ぶ。

⑥ 保管所から各地へ運送

積荷をあつかう仕事

1 JFEスチール東日本製鉄所（千葉地区）



東日本製鉄所 写真提供：JFEスチール（株）

日本の戦後の復興を支えた東洋一の鉄鋼一貫型臨海製鉄所

第二次世界大戦が終わり、復興の先がけとなり中心的な役割を果たしたのが、市南部の広大なうめ立て地で営業を始めた川崎製鉄千葉製鉄所（現在のJFEスチール東日本製鉄所（千葉地区））でした。

1953年6月には、カナダから5588トンの鉄鉱石をのせた高栄丸が製鉄所正面の岸壁に着き、当時最新鋭の設備を備えた製鉄所の高炉に初めて火がとりました。その後も設備を増やしていった千葉製鉄所は、1965年には当時東洋一の生産きぼをほこる、きよ大工場となりました。

当時工場で働いていた人の数は1万数千人にのぼり、家族も合わせると実に5万人近くになったといわれ、新たに住たくなどの建設が進みました。

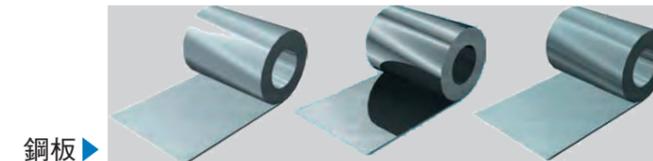


◀千葉港に入港した、1万トン級の船である高栄丸。後ろには製鉄所の高炉や煙突が見えます。

① どのような製品をつくっているのか

千葉市中央区にあるJFEスチール東日本製鉄所（千葉地区）は戦後日本で初めてつくられた、高さ100メートル以上の高炉を持つ鉄鋼一貫型製鉄所です。鉄鋼一貫型製鉄所とは、鉄鉱石などから鉄を取り出し、これをもとに建築・機械などに使われる鉄の板やぼうなどの製品をつくるまでの工程をすべて集めた工場のことです。

東日本製鉄所は広さが約765万平方メートルあり、世界最先たんの設備と技術を備えています。この製鉄所では特にうすい板の生産・加工を得意としており、ここでつくられた製品はかんづめやジュースのかん、キッチンのシンク、自動車などに使われています。



鋼板▶



写真提供：JFEスチール（株）

製品写真



▲自動車用鋼板

写真提供：JFEスチール（株）

② どうして海の近くにあるのか

大量の水を使う

鉄をつくるときには、熱くなった設備を冷やすためにたくさんの海水が使われます。使い終わった海水は、きれいにしょ理されて再利用されますが、このとき、有害な物質をふくんだ海水を海に流していないか、東日本製鉄所（千葉地区）では24時間体制で水質を測定しています。また、その結果を見学センターのモニターで常に配信するなど、情報の公開を行っています。

原料の輸入、製品の輸出に便利

鉄の原料である鉄鉱石は、日本ではとれません。鉄鉱石はオーストラリアやブラジルなど、外国から大型の専用船を使って輸入しています。鉄をつくるとちゅうで必要になるコークスの原料となる石炭も、海外から輸入しています。

鉄製品は、日本国内はもちろん、海外にも輸出され、ビルや工場などの鉄こつ、自動車の部品などに使われています。海のそばにあることで、輸出入がスムーズにできるのです。

2 千葉食品コンビナート



① 日本における最初で最大の食品工業団地

千葉市美浜区にある千葉食品コンビナートは、1964年に日本で初めてつくられた食品工業団地で、現在30を超える企業が集まり日本最大きぼとなっています。

小麦、とうもろこし、油脂、さとうの原料、冷とう水産物など、外国から船で運んできた原料を陸あげし、サイロやタンク、倉庫に保管します。保管された原料は、その近くにある工場で、小麦粉、さとうなど食品の材料に加工されます。それらの食品の材料は、さらにその後ろにある工場で、パンやおかし、めんなどの食料品に加工されます。また、工場のまわりには、つくられた製品を保管したり、出荷したりしている倉庫や物流の会社があります。

このようにして食品にかかわる会社を1か所に集めることで、原料が仕入れやすくなったり、輸送するきよりや時間を短くすることができ、食品を効率よくつくることができるようになっています。

ここでつくられた製品は千葉市内だけでなく、首都圏や全国に運ばれていて、わたしたちの食生活を支える重要な拠点になっています。

はなしのタネ

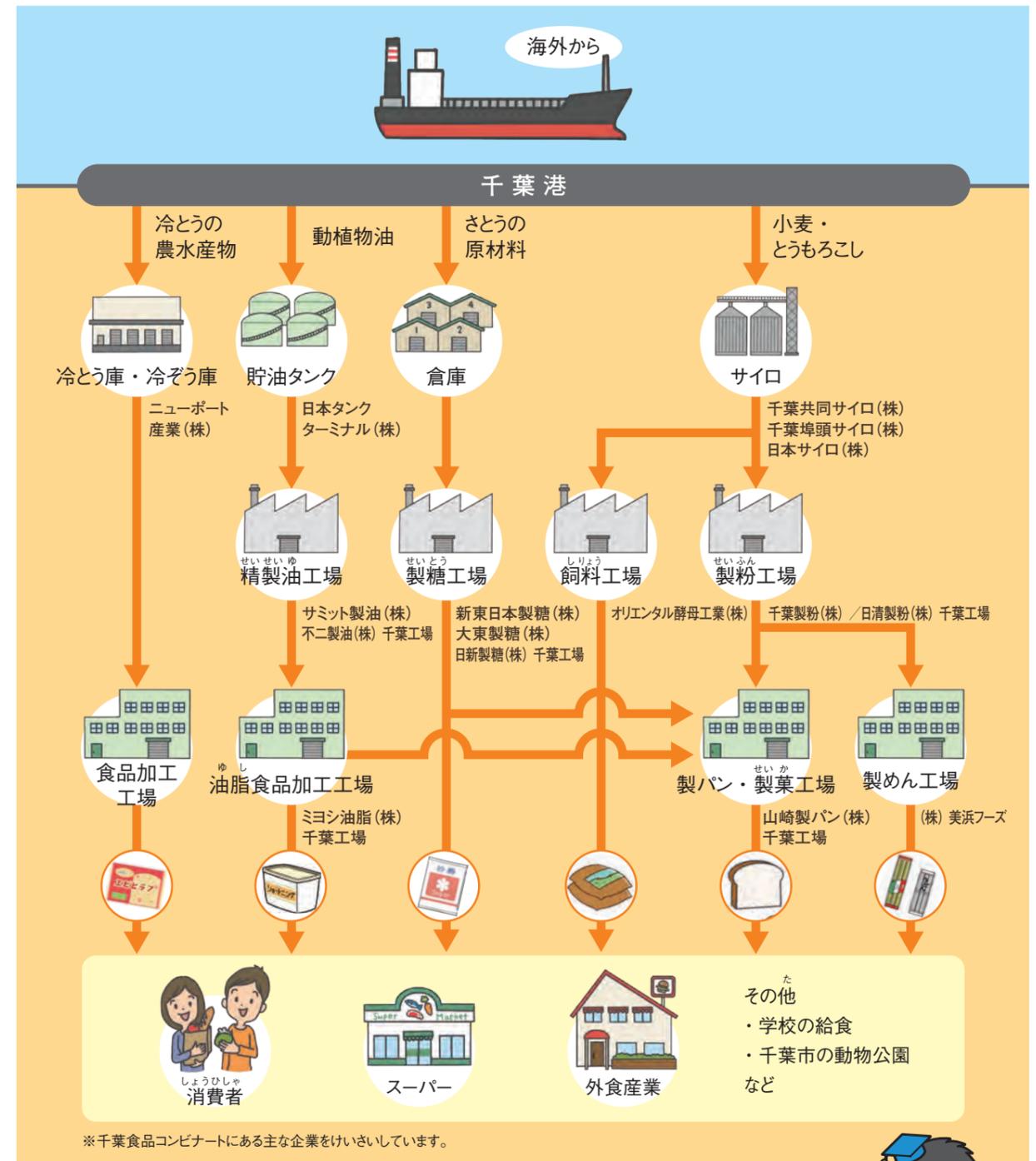
コンビナートって何だろう？

製品の生産や流通を効率的にするため、原料の保管から生産・加工、流通を行う企業の集合体、もしくはその工業地帯をいいます。

食品コンビナート以外にも「石油コンビナート」や「鉄鋼コンビナート」などがあります。

② 商品がとどくまで

小麦やさとうの原材料などを積んだ船が海外からやってきました。商品としてわたしたちの手元にとどくまでを見てみましょう。



千葉食品コンビナートの周りには、このほかにも食品に関わるいろいろな企業や施設が集まっているんだよ。



3 海辺にあるその他の施設

① 石油ターミナルと航空燃料輸送システム（成田国際空港株式会社）



千葉港頭石油ターミナル

千葉ポートタワーの西側に見える千葉港頭石油ターミナルでは、石油会社などからタンカーで運ばれた燃料を荷あげ用パイプでタンクに移し、貯蔵しています。燃料はそこから全長47キロメートルのパイプラインを通して成田空港まで運ばれ、飛行機の燃料として使われています。

② 千葉火力発電所（株式会社JERA）



千葉火力発電所 写真提供：(株) JERA

戦後の復興を支えた火力発電所

終戦直後の千葉は、電力不足がとても深刻で、必要な電力の99%以上を県外からの供給にたよっていました。そこへ千葉火力発電所が1950年代後半に運転を始めたことで、千葉県内の電力不足が改善され、工業化を進めるために必要だった電力も確保できるようになりました。

当時は「東洋一の火力発電所」とよばれ、県内だけでなく、県外へも電力を供給していました。今でもここでつくられる電気が首都圏の人びと（およそ125万世帯分）の生活や産業を支えています。

③ 幕張メッセ（株式会社幕張メッセ）



日本最大級のコンベンション施設

美浜区にある幕張メッセは、幕張地区のうめ立てによってできた広大な土地を利用し、1989年に建設されました。

敷地面積は約21万平方メートルで、国際展示場、国際会議場、イベントホールがあり、一年を通して国内外から多くの人びとがおとずれます。

※コンベンション施設…企業製品の展示会や国際会議、さまざまなイベントなどが開催できるように、会議室やイベントホールなどを備えた施設。

かんきょう
海辺の環境

コアジサシ

体長28センチメートルほどの鳥で、海岸や河原に集団で巣をつくります。絶滅危惧種に指定されており、千葉市では市民と共同で保護活動を行っています。1993年に千葉市の鳥として制定されました。

写真提供：其輪義隆

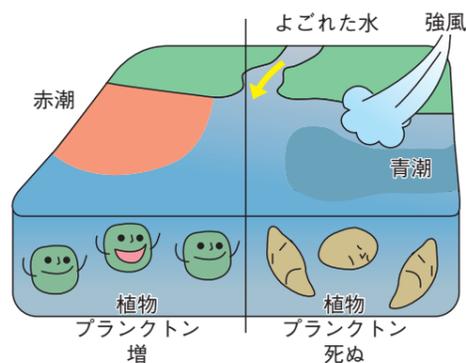
わたしたちがくらす千葉市の海辺の環境や

ぼうさい
防災について考えていきましょう。

1 あかしお あおしお
赤潮・青潮の発生

東京湾は、家庭や工場などの排水が流れこむため、プランクトンが好むちっ素やリンなどの養分をととても多くふくんでいます。そのため、特定のプランクトンが大量に増えて海面が茶色くなる「赤潮」や、海底にある、大量のプランクトンの死がい（さんそ）をふくんだ酸素の少ない海水が、強い風で海面にあがり、青くにごる「青潮」が発生することがあります。

赤潮も青潮も水中の酸素が減ることから、魚や貝などが死んでしまうおそれがあります。



▲赤潮と青潮の発生

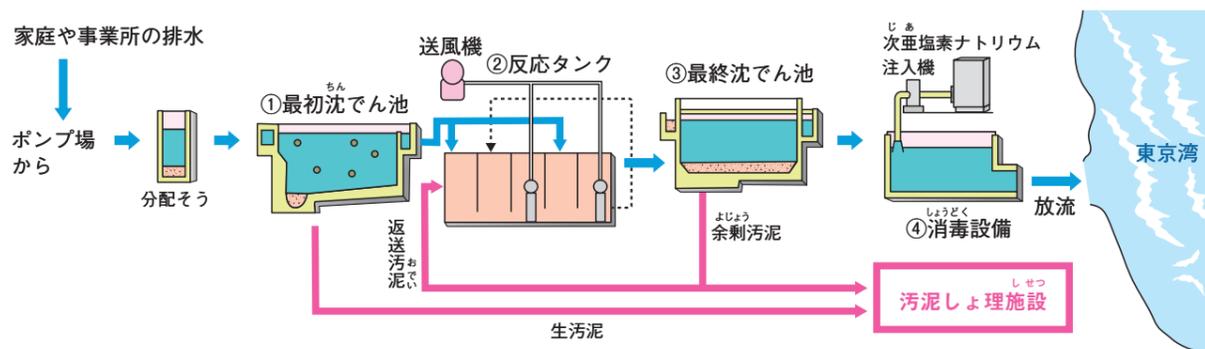


▲赤潮の海

▲青潮の海

2 生活排水のしよ理

家庭や工場から出されるよごれた水は、赤潮や青潮の原因になります。そのため、千葉市では、中央浄化センター、南部浄化センターで水をきれいにしてから川や海に流しています。



しよ理の流れ

- ① こまかいごみを取りのぞく。
- ② 微生物が入った泥（汚泥）や空気を混ぜることで、微生物が水の汚れを食べ、かたまりになる。
- ③ ②の微生物のかたまりを沈めて、きれいな水と分ける。
- ④ きれいな水をさらに消毒して、放流する。



水をきれいにするには微生物の働きがとっても重要なんだ。でも、家庭で使う油や、車のガソリンがたくさん流れると微生物が働きづらくなっちゃうんだよ。こういうものは下水に流さないように気をつけなくてはいいね。

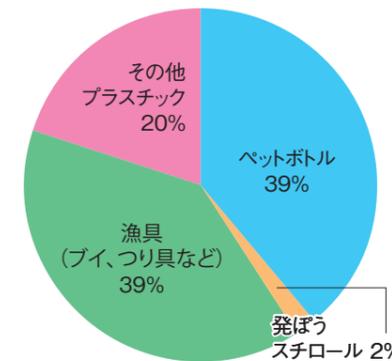
3 ひょうちやく
漂着ごみ

川や海にすてられたごみが、潮の流れに乗って海岸に打ち寄せられる漂着ごみは、海岸の景観を悪くするばかりでなく、海の生き物たちにもえいきょうをあたえています。



▲プラスチックごみ

漂着ごみの中には、流木などの自然物もありますが、網やブイなどの漁業の道具やプラスチックなどの人工物も多くあります。漂着ごみの多くは、わたしたちがすてたペットボトルやお菓子のふくろなどのごみです。漂着ごみは海の近くに住んでいる人だけでなく、だれにとっても身近な問題なのです。



▲八丈島（東京都）の人工物漂着ごみの割合（容積）
平成29年度海洋ごみ調査（環境省）

4 ビーチクリーン活動

美しい海岸を守るため、市のイベントやボランティア団体などで、海岸のごみを拾うビーチクリーン活動が行われています。



▲マイクロプラスチックごみ

トウキョウベイビーチクラブ かたおか
●Tokyo bay Beach club 片岡さんの話



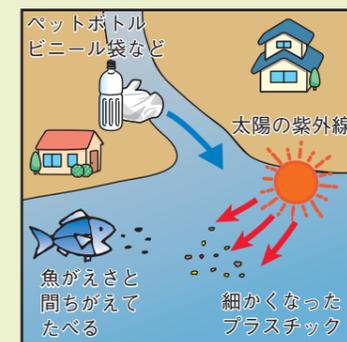
2017年4月から毎月、第一日曜日に1時間ほど検見川浜のビーチクリーン活動を行っています。ビーチクリーン活動に、少しでも多くの方に参加していただき、千葉市の海の文化としてこの活動が根づいてくれることを願いながら活動を続けています。千葉市の海がより魅力的になり、人びとの関心がさらに高まっていけばいいと考えています。そして、地元の千葉の海をもっと好きになってほしいと思っています。



▲1回の活動で集まったごみ

はなしのタネ

マイクロプラスチック問題



お菓子のふくろなどのプラスチックごみが紫外線や波によって細かくくだかれることでできた、5ミリメートル以下のごみを「マイクロプラスチック」といいます。自然界では分解されないため、えさと間ちがえて食べて死んでしまう動物が増えており、世界的に問題となっています。海にごみを流さないよう、きちんと一人一人が意識することが大切です。

もしものときに備えて、身近な地域について防災マップなどで調べておこう。



1 つなみ 津波から身を守る

津波について知る

海底で大きな地震が発生すると、海底の地盤が高くもり上がったたり、くぼんだりします。それにあわせて、その上に乗っている海水も動き、大きな波となって四方に広がり、やがて陸地におし寄せます。これが津波です。

津波は、海の底から表面までのすべての海水が動き、きよ大なかたまりとなっておそってくるため、陸地にとどく海水の量はとて多く、強い力をもっています。



● 地形的要件

(到達する津波はおとろえ、時間もかかる)



● 物理的要件

(防潮てい・津波ひなんビル)



2011年3月11日の東日本大震災を受け、東京湾の入り口に10メートルのきよ大な津波が起こった場合を想定しています。この場合、千葉市には50分程度で2.9メートルの津波が到達します。

2 地域の人と協力して取り組む防災（共助）

千葉市で海に一番近い場所にある小学校「海浜打瀬小学校」では、東日本大震災が起こった2011年から毎年、地域のマンション組合や保護者の方と協力して津波ひなん訓練に取り組んでいます。津波警報が発令されるとマンションの5階へ、大津波警報が発令されるとマンションの10階へひなんします。保護者の方やボランティアの方は、ひなんの誘導を助けたり、けがをした子どもや具合の悪い子どものお世話をしたりします。



1 自分の身を守るために取り組む防災（自助）

災害から身を守るために、自分たちにはどのようなことができるかを考え、防災の意識を高めることが大切です。家族や友だちと話し合い、もしものときに備えておきましょう。



海岸・河川に近づかない
注意報、警報が解除されるまで海辺に近づかないようにしましょう。



津波注意報、警報が出たら…
家族や近所に知らせ、急いで高台にひなんして、警報が解除されるまでもどらないようにしましょう。

3 公共機関が取り組む防災（公助）

わたしたちが安全にらせるように、公共機関はさまざまな取り組みをしています。

津波ひなんビルの表示

「津波警報」「大津波警報」が発表された際の一時的なひなん施設を示す表示です。



海抜表示シート
千葉市では、海沿いなどの海抜4メートル以下の地域に、約600か所設置しています。(2019年4月現在)

2 高潮から身を守る

高潮とは…

大きな台風などが近づいたとき、低気圧のえいきょうで海面の高さがいつもよりも高くなる現象です。



早めにひなんする

千葉県の発表によると、最大きぼの台風が上陸した場合、千葉市は美浜区のほぼ全域や中央区の沿岸部で、浸水が予想されています。

海辺には防波堤などがありますが、超大型の台風の上陸が予想される時は、早めに高台やひなん所にひなんしましょう。

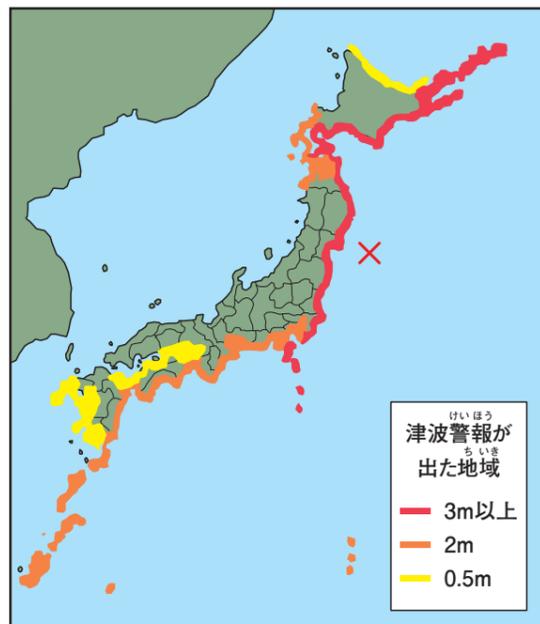
3 防災の情報を手に入れる

千葉市の防災情報は、「千葉市防災ポータルサイト」で確認することができます。台風や地震、津波などの自然災害に関する最新情報にくわえ、千葉市のひなん所の開設状況や災害時の緊急連絡先なども見ることができます。

千葉市防災ポータルサイト

<http://portal.bosai.city.chiba.lg.jp/>

津波の到達状況



防災マップの活用

2011年の東日本大震災では、大きな津波が東日本の沿岸部をおそい、たくさんの方がその被害にあいました。

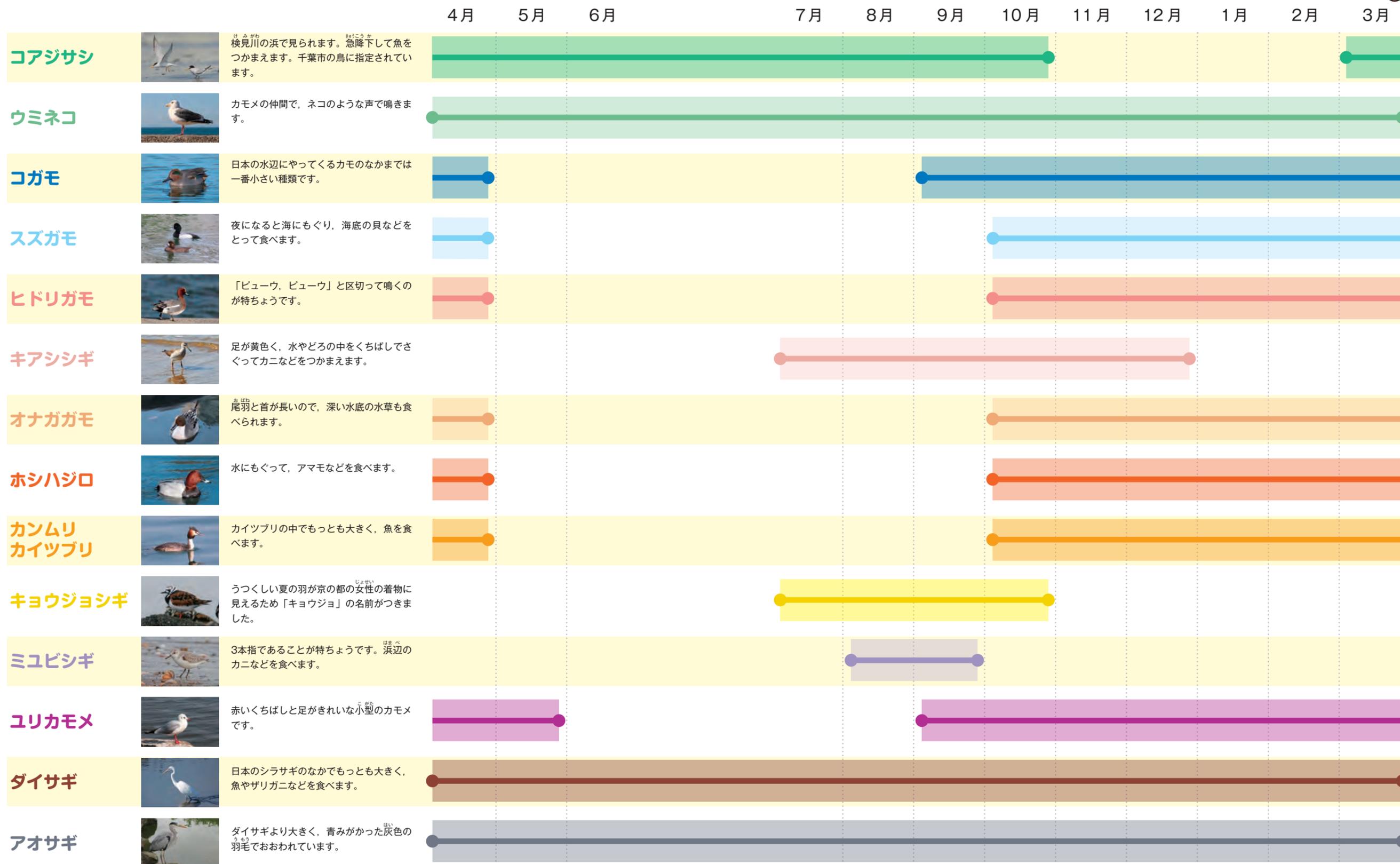
いつ起こるか分からない災害から身を守るため、最新の情報を手に入れるための方法を知り、ふだんから防災マップを見てひなん所を確認しておきましょう。

千葉県や千葉市が制作した地域別の防災ガイドです。災害発生時の対応など、必要な情報がたくさんついています。



海辺の生き物（鳥）

海辺では、一年じゅういろんな鳥に出会えるよ。



外来生物… 海外から入ってきた、もともと日本にはすんでいなかった生物。日本にすんでいた生物（在来種）の生態系などに悪い影響をあたえる生物もいます。

浅い

貝・甲殻類（主に浅瀬や干潟に生息）

貝類



アサリ
黒と白の山形の模様が特ちょうです。日本では昔から食用とされてきました。



カガミガイ
丸く平べったい鏡の形に似ています。貝がらがじょうぶなので化石として発見されることもあります。



ホンビノスガイ
大型で、灰白色のからをもちまです。1998年に幕張で発見された外来生物です。



バカガイ
昔から潮干がりでよくとれる大きめの貝です。「アオヤギ」ともよばれています。

甲殻類



イソガニ
海岸の水際や水中で見ることが出来ます。約2.5cmの大きさで、海藻や小魚などを食べます。



モクスガニ
川にいますが、産卵のために海へやってきます。はざみに濃い毛が生えています。



クロベンケイガニ
水辺に穴をほって生活しています。ハサミはむらさきがかかった色をしています。



テナガエビ
夜行性で、昼間は石の下などに隠れています。肉食で、魚の死がいなどを食べます。



エビジャコ
エビの仲間、浅い海に多くいます。夜行性で、昼間は砂にもぐっています。



タテジマフジツボ
1cmほどの大きさで、むらさき色の縦じま模様がついている外来生物です。船底などにくっついています。

海辺にはまだまだいろいろな生き物がすんでるよ。



魚



マハゼ
河口近くの砂底にいます。昔から多く生息しており、ハゼ釣りは江戸時代から行楽の一つです。



フグ
強い毒をもつ魚として知られており、食べられる部分は時期によって変わります。



アナゴ
夜行性で、浅い海の砂底に生息しています。うなぎのような体型で、うろこがありません。



ボラ
体は細長く、成長すると約50cmになります。卵巣を加工した「カラスミ」が食べられます。



スズキ
細長い銀色の体をしています。大きさによってセイゴ、フッコ、スズキと名前が変わります。



ピリンゴ
川の下流域から河口域に生息する、ハゼの仲間です。カゲロウなどの幼虫を食べます。



シロギス
内湾や沿岸部のきれいな砂底に住み、危険を感じると、砂の中に身を隠します。



メバル
頭にとげがあり、目が大きく張り出しています。群れで行動しています。

注意！危険生物



アカエイ
夏に多く見られます。砂の中にいますが、尾には毒のとげがあり、刺されると失神するおそれがあります。



アカクラゲ
たくさんの触手とかさの上の赤い筋が特ちょうです。触手にある刺胞に触れると強い痛みが走り、ひふにはれなどが起こります。

深い

うめ立て地の場所と年表



千葉市は面積の8分の1がうめ立て地なんだよ。



西暦	できごと
1873	千葉県誕生
1910	寒川港・登戸港が栄える
1914	第一次世界大戦が始まる
1921	千葉市誕生
1922	千葉港が指定港湾になる
1941	太平洋戦争がはじまる
1943	日立航空機千葉工場が蘇我のうめ立て地に進出
1945	日本が終戦をむかえる
1950	千葉港が地方港湾になる 川崎製鉄の誘致が決まる
1951	蘇我・今井地域のうめ立て再開
1954	千葉港が国際貿易港として開港
1957	幕張海岸のうめ立てはじまる
1957	千葉港が重要港湾に指定される
1961	稲毛海岸のうめ立てはじまる
1962	生浜地区付近のうめ立てはじまる
1964	千葉港中央地区のうめ立てはじまる
1965	千葉港が特定重要港湾に指定
1966	幕張B地区のうめ立てはじまる
1967	検見川地区のうめ立てはじまる
1969	稲毛海浜ニュータウン事業はじまる
1973	幕張A・C地区のうめ立てはじまる
1976	人工海浜「いなげの浜」がオープン
1981	「磯の松原づくり」が行われる
1986	千葉ポートタワーがオープン
1989	幕張メッセがオープン
1992	千葉市が政令指定都市となる

※22～23ページ参照

千葉ポートタワーから望める風景

千葉港に建つ千葉ポートタワーから東西南北を見わたしてみましよう。それぞれ、どんな特ちょうをもつ地域が見えるのでしょうか。

千葉ポートタワーから西を見ると…
東京湾方面が見えます。臨海副都心やお台場、東京タワーやスカイツリーがあり、天気がよい日には富士山が見えることもあります。

千葉ポートタワーから南を見ると…
手前に見えるのは、千葉港のコンテナターミナルです。ここで世界の国から運ばれてくるコンテナをあつかいます。向こう岸に見えるのは、JFEスチール東日本製鉄所の工場です。

千葉ポートタワーから北を見ると…
幕張方面が見えます。西側にある高層ビル群が幕張新都心です。ZOZOマリンスタジアムや幕張メッセといった大きな施設があります。東側には、遠く茨城県の筑波山が見えます。

千葉ポートタワーから東を見ると…
千葉市の中心部が見えます。千葉駅を中心に、市役所や千葉県庁、美術館や商業施設がたくさん集まっています。公園もたくさんあり、住民のいいこの場になっています。



千葉ポートタワーから見える施設

千葉市の海辺には、観光スポットやスポーツの会場など、さまざまな施設があります。あなたが行ったことのある施設はありますか？



千葉ポートタワー

1986年にオープンした千葉港のシンボル。東京湾の風景を一望できる。



ZOZOマリンスタジアム

プロ野球チーム・千葉ロッテマリーンズのホームグラウンド。



幕張メッセ

展示会やイベント、大きな会議などが行える日本最大級の施設。



アクアリンクちば

スケートと温水プールが楽しめる施設。ごみを燃やすエネルギーを再利用している。



三陽メディアフラワーミュージアム

千葉市花の美術館。約1600種類、4万8000株の植物がさいばいされている。



フクダ電子アリーナ

プロサッカーチーム・ジェフユナイテッド市原・千葉のホームスタジアム。

千葉ポートタワーに行ってどんな施設が見えるか調べてみよう。



緑と水辺の都市宣言

私たちは、生命をはぐくみ文化を支える緑と水辺に恵まれた美しい環境のなかに住みたいと願う。

千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境の中で、健やかに活力に満ちた生活が営まれてきた。

私たちは、この千葉市に住むことを誇りとし、都市づくりの総べてにわたって、自然との調和を求めつつ、この緑と水辺を千葉市の個性にまで高め、これを次代に引き継ぎたいと思う。

このため、市民の総力をあげて、豊かな緑ときれいな水辺の都市づくりをすすめることを誓い、ここに、私たちの郷土千葉市を「緑と水辺の都市」とすることを宣言する。

1984（昭和59）年10月20日



クラス			氏名
	年	組	
クラス			
	年	組	

令和2年3月発行
発行：千葉市・千葉市教育委員会
制作協力：東京書籍株式会社